



学校だより
きたこいわ
北小岩



ホームページアドレス <http://edogawa.schoolweb.ne.jp/kitakoiwa-e/>

令和6年度

No. 6 (639号) 10月号
令和6年9月30日発行
江戸川区立北小岩小学校
校長 藤島 寿晴

校内研究のおはなし

今年度、北小岩小学校では校内研究を「特別活動」の学習活動で行っています。校内研究とは教員の指導力を高めるための方法を探究したり、目指す児童像に近付けるための仮説を立てた実証授業の実践をしたりする「研究」の場で、全国ほぼ全ての学校で行われています。似たような言葉で「校内研修」がありますが、言葉の通り学校内で複数名単位で研修を実施するもので、例えば本校では毎年度初めに、アレルギー対応研修を開催し、食物アレルギーの発生をシミュレートしたロールプレイやエピペンと呼ばれるアナフィラキシーショックを防ぐ注射の試技などを行う実技の研修を実施しています。さて冒頭の話に戻りますが、「特別活動」とはどのような学習活動かということ、時間割にある「学級活動」や高学年なら「委員会活動」「クラブ活動」、学校全体なら遠足や運動会といった「学校行事」などです。では、この特別活動でどんな研究をするのだ？という展開になっていくわけですが、今回の研究で取り上げるのは主として、「学級活動」の場面です。大人の方々は思い出してみてください。皆さん、小学生の時にどのような学級活動を経験したでしょうか。学級活動では「学級会」といった話し合いをしませんでしたか？どのような「話し合い活動」を思い出せますか。議長団が編成されて、進行役や書記がいて、今日の議題（話し合うテーマ）の発表からその理由が紹介され、そして司会の「それでは話し合いを始めます。意見のある人？」のかけ声で始まる“活動”です。この活動は特に今、教育界では非常に重要視されています。この活動の中で活躍できる子どもの力こそが、これからの社会で求められる力の一つとも言われています。「合意形成」「他者理解」などこれからの社会で生きる上で身に付けておきたい力には、特別活動を通して触れることができるものが少なくありません。もちろん特別活動だけでそのような力を身に付けるのかということではありませんが、子どもたちにとって貴重な学びの機会であることは、間違いありません。そもそも話し合いをきちんとできる人間は、社会で生きていく上で大きなアドヴァンテージをもっています。そのような人の間で必要とされる力を育成させるための学習が、北小岩小学校で日常的に行われるように研究を通して積み重ねていこうと、今日も先生たちが頑張っています。